

O-25

一般演題 6/Oral Session 6

当院における過去 5 年間のアフェレシス実績の検討

名古屋掖済会病院 臨床工学部¹⁾、名古屋掖済会病院 腎臓内科²⁾
宮本浩三¹⁾、高橋幸子¹⁾、土井厚¹⁾、花隈淳¹⁾、森下雄亮¹⁾、中井浩司¹⁾、澤田知広¹⁾、森谷尚志¹⁾、瀬寄良三²⁾

【はじめに】過去 5 年間、当院において施行されたアフェレシス治療の治療効果及び副作用について分析を行った。【期間・対象】2009 年 1 月から 2013 年 12 月までの 5 年間に当院で施行した CART、PBSC、PMX、PE、PA、GCAP、LDL アフェレシス治療 95 症例中、PMX (37 例)、CART (15 例)、PBSC (12 例) 症例を除く、PE、PA、GCAP、LDL アフェレシス治療の 31 症例 (神経、腎、血液、消化器、皮膚および代謝疾患) 154 回を対象にした。【結果】31 症例は、神経疾患：(MG 4 例、GBS 3 例、MS 2 例、ステイフ・マン症候群 1 例、ホプキンス症候群 1 例)、腎疾患：(ネフローゼ症候群 4 例、SLE 2 例、ANCA 関連血管炎 1 例、RPGN 1 例)、血液疾患：(TTP 3 例、MM 1 例、後天性血友病 1 例)、消化器疾患：(UC 5 例)、皮膚疾患：(TEN 1 例)、代謝疾患：(インスリン自己免疫症候群 1 例) であり、有効は 21 症例、無効は 10 症例、疾患別では (神経 11 例中 10 例、腎 8 例中 3 例、血液 5 例中 4 例、消化器 5 例中 2 例、皮膚疾患 1 例中 1 例、代謝疾患 1 例中 1 例) で有効であった。治療回数 154 回中、副作用の発生回数は 24 回、15.6% であり、蕁麻疹、掻痒感、血圧低下、徐脈であった。発生回数は、PE (FFP20 回、アルブミン製剤 1 回)、LDL アフェレシス 2 回、PA 1 回で認め、PE (FFP 置換) の症例で多く副作用が見られた。【考察】神経疾患に対する有効性が PE、PA いずれの方法でも認められた。副作用については、予想通り FFP 使用による PE で多く見られたがステロイドの使用、またはアルブミン製剤を含む電解質液に変更することで安全に治療が継続できた。

Examination of the apheresis track record for the past five years in our hospital.

Department of Clinical Engineering ,Nagoya Ekisaikai Hospital¹⁾, Department of Nephrology,Nagoya Ekisaikai Hospital²⁾
Hiromi Miyamoto¹⁾, Sachiko Takahashi¹⁾, Atsushi Doi¹⁾, Atsushi Hanakuma¹⁾, Yusuke Morishita¹⁾, Koji Nakai¹⁾, Tomohiro Sawada¹⁾
Takashi Moriya¹⁾, Ryouzou Sezaki²⁾

利益相反：なし

O-26

一般演題 7/Oral Session 7

当センターで実施した血漿交換療法の現状と問題点

順天堂東京江東高齢者医療センター 臨床工芸室¹⁾、順天堂東京江東高齢者医療センター 膠原病内科²⁾
順天堂東京江東高齢者医療センター 総合診療科³⁾
今野拓也¹⁾、久保智美¹⁾、上田陽子¹⁾、石井智訓¹⁾、安倍能之²⁾、鈴木淳²⁾、梁広石³⁾、津田裕士³⁾

【目的】開院 10 年を迎え当センターで実施した血漿交換療法の現状と問題点を評価した。
【対象】2005 年度から 2013 年度までに当センターで実施された患者数 362 名 (男性 99 名・女性 263 名)、実施総件数 3138 件の年齢、性別、対象疾患と治療法を統計学的に評価し問題点をまとめた。
【結果】患者の平均年齢は 60.3 歳と総務省統計局で言われている高齢者より若めであったが 60 歳以上の患者が 215 名おり全体の 59.4% を占めていた。対象疾患ではリウマチ・膠原病が 2660 件、血液疾患 300 件、消化器疾患 126 件、神経疾患 25 件、皮膚疾患 12 件、代謝性疾患 7 件、腎疾患 4 件、その他 4 件とリウマチ・膠原病が総件数の約 85% となった。治療法では、二重膜濾過法が 1963 件と総件数の 62.0% を占めており当センターで一番多く実施された。また、治療が中断されたケースは、アレルギー症状や血圧低下によるトラブル 33 件・穿刺関連によるトラブル 25 件・凝固系のトラブル 63 件・不穏行動によるトラブル 46 件合計 167 件あり実施総件数の約 5% に認められた。中断された 167 件のうち 100 件は 60 歳以上であった。
【まとめ】当センターでは、対象となった患者の約 60% が 60 歳以上であり、全年代共通に見られるアレルギーや血圧低下より高齢者特有と思われるトラブルが多かった。
【結語】今後は高齢患者の増加、長期維持血漿交換による患者の高齢化により高齢であるが故のリスクが増加する。高齢者においても安全に血漿交換療法が施行できる対応が必要だと思われた。

The facts and problems of the plasmapheresis therapy in our hospital

Division of Medical Engineering, Juntendo Tokyo Koto Geriatric Medical Center¹⁾
Department of Rheumatology, Juntendo Tokyo Koto Geriatric Medical Center²⁾
Department of Geriatric General Medicine, Juntendo Tokyo Koto Geriatric Medical Center³⁾
Takuya Konno¹⁾, Satomi Kubo¹⁾, Youko Ueda¹⁾, Tomonori Ishii¹⁾, Yoshiyuki Abe²⁾, Jun Suzuki²⁾, Kwangseok Yang³⁾, Hiroshi Tsuda³⁾

利益相反：なし

9月27日(土)
プログラム9月28日(日)
プログラム

特別企画

特別講演

教育講演

大会長講演

シンポジウム

ワークショップ

アフェレシス
プレレクチャーAsian
Sessionシンポジウム
技術

技術委員会

モーニング
セミナーランチョン
セミナー

一般演題

索引